

# 2002年度決算説明会資料

2003年5月20日

川崎汽船株式会社

# 目次

1 . 2002年度決算概要

2 . 2003年度業績見込

3 . KV-PLAN進捗状況

# 1-A. 2002年度決算概要

(単位:億円)

		2002年度	2001年度	前期比 増減額	前期比 増減率	公表数値	KV-Plan 計 画02年度
売上高	連結	6,327	5,710	617	10.8%	6,300	6,000
	単体	4,998	4,492	501	11.3%	4,950	4,600
営業損益	連結	293	190	103	53.7%	290	185
	単体	198	83	115	139.1%	190	95
経常損益	連結	237	120	117	97.8%	230	145
	単体	164	71	93	131.0%	150	80
当期損益	連結	104	48	56	117.6%	110	90
	単体	65	28	37	134.5%	65	45
配当	単体	5円	3円	+2円	66%	5円	4円
為替レート	平均	¥122.29	¥125.11	¥2.82高	+2.3%	¥122	¥130
バンカー価格	平均	\$161.60	\$134.17	\$27.43高	+20.4%	\$163	\$140

燃料費実績:608億円(前期比+145億円)、消費ト<sub>ン</sub>数320万ト<sub>ン</sub>(前期比+33万ト<sub>ン</sub>)

# 1-B.連結セグメント情報

(単位:億円)

2003年3月期	海運業	運輸付帯	その他	連結
営業収益	5,302	888	137	6,327
営業利益	224	48	21	293

2002年3月期	海運業	運輸付帯	その他	連結
営業収益	4,812	758	140	5,710
営業利益	132	45	13	190

営業収益増減	+490	+130	3	+617
営業利益増減	+92	+3	+8	+103

# 1-C1.部門別業績動向(コンテナ船)

## コンテナ船:業績横ばい

- 中国出し貨物を中心に欧米向け積高大幅増
- 欧州航路運賃修復実現
- コスト削減運動進捗
- 北米航路運賃下落
- 燃料油価格高騰
- 米国西岸港湾ロックアウトによる費用増加

# 1-C2.部門別業績動向(不定期専用船)

## 不定期専用船:業績改善達成

- 不定期船:運賃市況回復基調  
鉄鋼原料輸送船中心に稼働大幅増  
燃料油価格高騰
- 自動車船:北米・豪州・中近東向け輸送増  
船舶経費削減等でコスト削減  
燃料油価格高騰  
米国西岸港湾ロックアウトによる費用増加

## 1-C3.部門別業績動向(エネルギー-資源輸送)

### エネルギー-資源輸送:業績横ばい

- 液化ガス運搬船:各プロジェクト共順調に進捗
- 電力炭:市況回復、新造船投入効果もあり輸送量大幅増加
- 油槽船:タンカー市況下期上昇

# 1-C4.部門別業績動向(連結子会社)

- 内航・フェリー部門:業績安定
- 航空貨物取扱:下期貨物急増により業績改善
- 運輸付帯サービス:前期は9ヶ月決算  
貨物扱い増に伴い業績改善  
内需関連は低迷



## 2-A. 2003年度業績見込み

(単位:億円)

		2003年度 見 込	2002年度 実 績	増 減 額	増 減 率	KV-Plan 2003年計画
売 上 高	連結	6,750	6,327	423	6.7%	6,300
	単体	5,300	4,998	302	6.0%	4,800
営 業 損 益	連結	430	293	137	46.8%	290
	単体	320	198	122	61.6%	160
経 常 損 益	連結	390	237	153	64.6%	230
	単体	300	164	136	82.9%	130
当 期 損 益	連結	165	104	81	77.9%	120
	単体	110	65	65	100%	70
配 当	単体	6円	5円	1円	-	-
為 替 レ ー ト	平均	¥120	¥122	¥2	-	¥130
バンカー 価 格	平均	\$160	\$162	\$2	-	\$130

前提: 為替: 通期120円、バンカー価格上期\$165、下期\$155、通期\$160

## 2-B.連結セグメント情報

(単位:億円)

2004年3月期	海運業	運輸付帯	その他	連結
営業収益	5,630	985	135	6,750
営業利益	345	65	20	430

2003年3月期	海運業	運輸付帯	その他	連結
営業収益	5,302	888	137	6,327
営業利益	224	48	21	293

営業収益増減	+328	+97	2	+423
営業利益増減	+121	+17	1	+137

## 2-C. 部門別業績動向

- コンテナ船：欧米向け荷動きは安定推移  
運賃率の修復、航路再編等によるコスト削減の推進  
運賃率修復・営業規模拡大により前期比大幅改善見込み
- 不定期専用船：不定期船市況は比較的安定推移  
自動車船は欧米向け荷動き不透明  
業績は前期比悪化見込み
- エネルギー資源輸送：電力炭は運賃修復期待  
油槽船市況は沈静化するもその後は安定推移  
業績は横ばい
- その他：港湾運送、航空貨物輸送関連好調  
業績は横ばい

### 3-A. KV-Plan数値目標年度推移(連結ベース)

	2001年度 通期実績	2002年度 通期実績	2003年度 通期見込	2003年度 KV-Plan計画	2004年度 KV-Plan計画
売上高	5710億円	6327億円	6750億円	6300億円	6500億円
経常利益	120億円	237億円	390億円	230億円	350億円
株主資本	777億円	820億円	980億円	950億円	1100億円
有利子負債残高	3356億円	3066億円	3000億円	2950億円	2750億円
R O E	6.5%	13%	18.3%	13%	19%
R O A	2.3%	4.5%	7.6%	5%	7%
株主資本比率	14.6%	15.9%	19.2%	19%	22%
営業CF	331億円	329億円	470億円	450億円	550億円
フリーCF	146億円	92億円	40億円	220億円	200億円
有利子負債比率	79.8%	77%	74%	74%	70%

主要財務指標も概ね、計画通り推移

## 3-B. KV-Plan基本課題の遂行状況

### < 基本課題 >

1. **コスト削減・IT活用による企業体質の一層の強化**
2. **地域密着型グローバル化の推進と営業分野間のシナジー効果の追求**
3. **ロジスティクス事業への取り組み強化**
4. **輸送技術の革新の追求、安全運航の徹底と環境保全への取り組み強化**
5. **経営の透明性と効率性を目指すコーポレートガバナンス体制の強化**

### 3-B. < KV-Plan基本課題1 >

## コスト削減・IT活用による企業体質の一層の強化

- コンテナ船基幹業務システム「GAPP」グローバルアプリケーションネットワーク本格稼働(4月)
- 神戸支店と大阪支店を統合し関西支店設置(7月)
- コスト削減初年度目標200億円を上回る234億円の削減達成
- 米国に“K” Line Global Systems, Inc (KGS)を設立し、グローバルIT戦略を立案し推進する拠点とする。(9月)
- 日本におけるB/L等の船積書類の作成をマレーシアの関係会社One Stop社に移管開始(10月)

### 3-B. <KV-Plan基本課題2>

## 地域密着型グローバル化の推進と営業分野間のシナジー効果の追求

- 韓国代理店(旧東宇海運)を“K” Line (Korea) Ltd.に社名変更 (4月)
- 資源輸送事業の欧州(ロンドン)拠点開設、大西洋、地中海水域の積極的ビジネス展開目指す。(7月)
- 川崎汽船の国内営業総代理店として(株)ケイラインジャパンを設立し、コンテナ船営業を中心に営業強化を図る。(10月)
- アフラマックスタンカーの整備(9月1隻竣工、2隻新造計画発表)とシンガポール中心の営業展開推進。(03年1月より)

### 3-B. < KV-Plan基本課題3 >

## ロジスティクス事業への取り組み強化

- 米国に“K” Line Total Logistics, LLP (KLTL)を設立し、北米を中心としたSCMを提供強化。(6月)
- KBHS役員会に国内物流子会社社長が結集し、営業のシナジー強化を追求中。(6月以降)
- タイにて、“K” Line (Thailand) Ltdを中心に国際物流のワンストップサービスを開始。(7月)
- ケイライン物流ホールディングス社(KBHS)を中心に国内物流子会社の資本集約を図る。川崎航空7月実施(7月)
- “K” Line Total Logistics (KLTL)サービスロゴ制定(1月)
- インドネシア初の物流ワン・ストップ・サービス開始(3月)



### 3-B. <KV-Plan基本課題4>

## 輸送技術の革新の追求、安全運航の徹底と環境保全への取り組み強化

- 圧縮天然ガス(CNG)輸送研究における米国EnerSea Transport社及び現代重工業との戦略的提携の発表(7月)
- 海上コンテナへの貨物積付けプラン作成システム(VAN-PRO)開発(8月)
- 「環境レポート2002」の発行(8月)
- タンカー大規模事故演習の実施(11月)
- 船舶運航診断システム稼動開始(11月)
- FTSE社の社会的責任投資インデックスに採用される(03年4月)

### 3-B. <KV-Plan基本課題5>

## 経営の透明性と効率性を目指すコーポレートガバナンス体制の強化

- 関係会社取締役を含めたストックオプションの導入の決定(5月)と実施(9月)
- 四半期毎にグループ経営懇談会を開催(5月以降)
- 株式交換による太洋日本汽船と神戸棧橋の完全子会社化(9月)
- 四半期連結決算のトライアル実施(第1四半期)と対外公表開始
- コンプライアンス委員会設置(03年4月)